

科学館今昔物語

開館から50年。書庫に保存されているアルバムの写真と、現在の写真を並べました。



2010年



プラネタリウム受付

2019年



1980年

プラネタリウムドーム



2020年



2000年

天体観測



2017年



1975年

D51形蒸気機関車

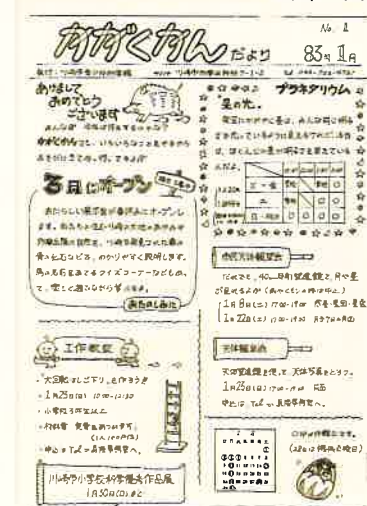


2020年

科学館だよりとプラネタリウムリーフレット

科学館だより

手書きからスタートした「科学館だより」
形を変えながら館の催しを発信し続けています。
プラネタリウムリーフレットも開館時から続いています。

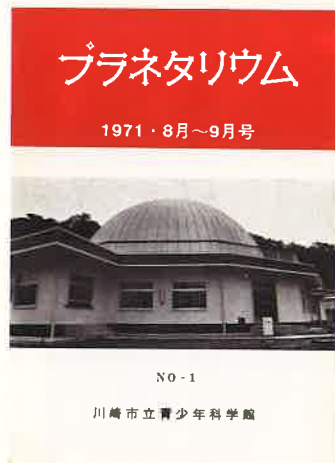


科学館だより第1号(1983年)



館のリニューアル時は193号!(2012年)

プラネタリウムリーフレット



開館時(1971年発行)



50周年(2021年発行)

50周年記念事業

「宙も緑も市民とともに!」をテーマとして、様々な50周年記念事業を開催します。
皆様のご来館をおまちしております。

4/29(木・祝)から
プラネタリウム
フュージョン新番組

7/17(土)から
プラネタリウム
50周年記念番組

11/3(水・祝)
記念科学講演会

12/11(土)
記念プラネタリウムコンサート

2022年 2/6(日)
記念対談

6/19(土)~7/21(水)
記念写真展

7/27(火)~8/22(日)
企画展「川崎の生きもの」

11/28(日)
かわさきぶらりんフェスティバル
(子ども向け科学フェスタ)



公式ホームページ



〒214-0032 川崎市多摩区枋形 7-1-2
【TEL】044-922-4731 【FAX】044-934-8659 【HP】<https://www.nature-kawasaki.jp/>
休館日：毎週月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土日・祝日の場合は開館)、年末年始



科学館だより 開館50周年記念号

2021年4月 No.247



開館50周年「宙も緑も市民とともに!」

多くの皆様に支えられ、かわさき宙と緑の科学館は開館50周年を迎えます。
50周年記念号では、館のあゆみや取組を紹介するとともに、予定している
記念事業についてお知らせします。



かわさき宙と緑の科学館のあゆみ

昭和46年(1971年)川崎市青少年科学館 開館

昭和43年頃から川崎市の学校関係者の間で、児童生徒の理科学習の充実のためプラネタリウム設置の機運が高まりました。また、市民天体観望会等の活動を行っていた川崎天文同好会をはじめ、市民からもプラネタリウム建設の要望が寄せられました。公害が問題となっていた当時、川崎の子どもたちに美しい星空を体験してもらい、科学への関心を高めてもらいたいという強い思いがありました。こうして昭和46年、当時神奈川県内で2番目のプラネタリウムが完成し、青少年科学館が誕生しました。



建設中



開館当日

プラネタリウム

開館当時は直径16mのドームにM2型という投影機が設置されていました。当時のプラネタリウムは機能が限定されており、職員が補助投影機を手作りし、工夫して投影を行いました。当時のプラネタリウム観覧料は一般20円でした。番組は開館以来職員が毎月制作して生解説で投影しており、この伝統は今に引き継がれています。昭和55(1980)年には2代目となるGMⅡ型投影機に更新され、投影機能も当時最新のものとなりました。



初代：M2



操作台



2代目：GMⅡ

D51形蒸気機関車の移設

開館して間もない昭和46年10月、1両の分解されたD51形蒸気機関車が生田緑地に運ばれ組み立てられました。昭和15年に製造され、約140万kmを走破したこの機関車は、公募により「デコちゃん」の愛称で科学館の野外展示物となりました。それから50年、その雄姿は昔も今も子どもたちの人気者、人気撮影スポットとなっています。



移設中



現在

昭和58年(1983年) 本館展示室オープン

自然に関する展示室や実験室、天体観測室などを備えた本館が完成し、常設展示室には「川崎の大地のあゆみ」「多摩丘陵の四季」など4つのコーナーが設置されました。市内で発見されたアケボノソウの骨格模型、覚えている方も多いのではないのでしょうか。



平成24年(2012年) リニューアルオープン

開館から約30年、狭い施設、プラネタリウムの老朽化等が課題となり、旧プラネタリウム館を建替えて自然学習棟に、旧本館を改築して研究管理棟となり、通称「かわさき宙と緑の科学館」として現在の姿となりました。

【展示室・学習室】

自然の常設展示は5つのコーナーに生まれ変わり、生田緑地ギャラリーには緑地で見られる生きものを標本や剥製で紹介。2階には3つの学習室、実験室があり、科学実験教室などが開催されています。



【プラネタリウム】

直径18mの新ドームに川崎市出身の世界的プラネタリウムクリエイターである大平貴之氏の開発した世界に1台の最新鋭機、メガスターⅢフュージョンが設置されました。



【アストロテラス】

館の屋上に4台の望遠鏡が設置された可動屋根付きの天体観測スペースです。昼間の太陽観察、夜間の天体観測会「星を見る夕べ」が開催されています。地域の3名の方の多額の寄附をもとに望遠鏡を整備しました。



魅惑のプラネタリウム

【一般投影】

開館以来、職員が毎月番組を自主制作し、機械を操作しながら肉声で生解説するのが科学館のスタイルです。50年間、投影機が最新式となってもこの手法はほとんど変わりません。生解説なので解説者の個性が出るのも見どころ。番組ポスターのキャッチフレーズも要チェックです。



【特色ある投影】

科学館オリジナルのアニメ映像による子ども向け投影、メガスターの星空と宇宙誕生の物語映像を融合したフュージョン投影、乳幼児も楽しめるベビー&キッズアワー、解説歴60年以上のプラネタリウム弁士、河原郁夫氏が名曲に乗せて贈る星空ゆうゆう散歩などがあります。



子ども向け投影



ベビー&キッズ



星空ゆうゆう散歩

【学習投影】

開館から続く児童生徒の理科学習向けの投影です。全国に先駆けて市立学校の校庭からの360度スカイライン映像を取入れ、方角を確認して学習することができます。幼稚園、保育園の学習にも利用されており、親子2代で学習投影を経験した市民の方も多いのではないのでしょうか。



かつての学習投影



学校スカイライン

【プラネタリウムを活用した事業】

「使うプラネタリウム」として小学生が番組を制作し投影に挑戦するワークショップ、星空の下でのコンサートや本の読み聞かせ、オーロラ映像の全天投影など、プラネタリウムを活用した事業が行われています。



プラネタリウムワークショップ



プラネタリウムコンサート

【自然観察会】

生田緑地を案内するネイチャーガイド。植物、昆虫、野鳥、地層、里山、まるごと... いろいろなテーマで四季折々の自然ガイドを行うのは、生田緑地を熟知したかわさき自然調査団のメンバーです。毎月2~4回、日曜日に開催されています。



科学館の取組

科学普及事業

【科学実験教室】

科学の楽しさを子どもから大人まで体験できる教室には長い歴史があります。現在は、科学市民団体メンバーや職員が講師となり、当日誰でも参加できるサイエンスワークショップ、様々な年代向けに用意された事前申込制のサイエンス教室などが開催されています。



1973年



2020年

【ワクワクドキドキ玉手箱】

子どもたちがいつでもどこでも科学実験を体験できる実験セットとして、「玉手箱」が開発され、科学市民団体「かわさきアトム工房」の方々が市内の学校や町内会等で科学実験教室の出前を行っています。「超低温の世界」「静電気」「水ロケット」等、現在24種類の玉手箱があります。



超低温の世界

調査研究事業

博物館の仕事は資料を集めること、調べること、その成果を展示や教育普及活動により広く伝えることです。科学館の調査研究は、多くの市民と協働で進められてきたところに特徴があります。

【自然調査】

昭和57(1982)年に開始された市内タンポポ調査をはじめ、生田緑地を中心とした市内の自然環境調査が、かわさき自然調査団など市民と協働で継続して行われています。また、タヌキ調査、セミ調査なども実施され、その結果は自然環境調査報告書、紀要等で報告されています。



【資料収集】

科学館の収蔵庫には、植物、昆虫、鳥類、哺乳類など約6万点の資料が収蔵されています。収集した資料は整理・登録を行い、調査研究の貴重なデータとして活用され、インターネット上で世界へ公開されています。



【天体観測】

科学館では、昭和57(1982)年の天体観測室完成以来、太陽の観察を続けており、他にも様々な天文現象を観測しています。大学との共同観測、川崎市内各地で夜空の明るさを調べる星空調査等も行い、その成果は論文や学会で報告するとともに、館の事業でも活用されています。



天体観測室40cm望遠鏡



ハレー彗星